

**製品名: V-ATPase C2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19734**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ATP6V1C2
別名	ATP6V1C2; V-type proton ATPase subunit C 2; V-ATPase subunit C 2; Vacuolar proton pump subunit C 2
遺伝子 ID	245973.0
SwissProt ID	Q8NEY4
免疫原	抗血清はヒト ATP6V1C2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 121-170

**背景**

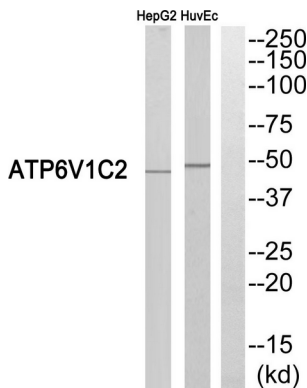
この遺伝子は、真核生物の細胞内小器官の酸性化を媒介する多サブユニット酵素である液胞 ATPase (V-ATPase) の構成要素をコー

ドします。V-ATPase 依存性の細胞内小器官の酸性化は、タンパク質の選別、チモーゲンの活性化、受容体を介したエンドサイトーシス、シナプス小胞のプロトン勾配の生成などの細胞内プロセスに不可欠です。V-ATPase は、細胞質 V1 ドメインと膜貫通 V0 ドメインで構成されています。V1 ドメインは、3 つの A サブユニット、3 つの B サブユニット、2 つの G サブユニット、および C、D、E、F、H サブユニットで構成されています。V1 ドメインには ATP 触媒部位が含まれています。この遺伝子は、異なる V1 ドメイン C サブユニットアイソフォームをコードする、代替転写スプライスバリエントをコードしています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 液胞 ATPase の末梢 V1 複合体のサブユニット。サブユニット C は酵素の触媒セクターの組み立てに必要であり、その触媒活性において特定の機能を有すると考えられます。V-ATPase は真核細胞における様々な細胞内コンパートメントの酸性化を担っています。類似性: V-ATPase C サブユニットファミリーに属します。サブユニット: V-ATPase は、膜貫通型 V0 プロトンポア複合体 (構成要素: a、c、c'、c"、d) に結合した末梢触媒 V1 複合体 (構成要素 A~H) からなるヘテロ多量体酵素です。組織特異性: 腎臓および胎盤。、

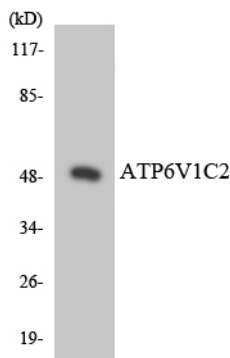
## 研究分野

酸化リン酸化、コレラ菌感染症、ヘリコバクターピロリ菌感染症における上皮細胞シグナル伝達

## 画像データ



ATP6V1C2 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンが ATP6V1C2 ペプチドでブロッキングされている。



ATP6V1C2 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。